

2024年5月28日

横須賀市長 上地克明 様

日本共産党市議団
団長大村 洋子
井坂 直
ふじその あき

米海軍横須賀基地における
空砲射撃訓練中止を求める要請

過日、防衛省の本市来訪があり、横須賀基地内12号バース付近で米海軍による空砲射撃訓練実施の連絡があった。これは基地内の施設警備を任務とする憲兵隊の「仮想侵略船」への対処が名目で、警備艇を使用し警備マニュアルに従って行われるとのことだ。空砲射撃訓練は6月4日(火)～6日(木)の3日間、午前9時～午後4時とのことで、訓練海域南側には公園や住宅地が広がり、この海域は制限水域と言われているが民間船舶の通航も可能となっていることから影響が非常に危惧される。

防衛省によれば、横須賀基地でこのような訓練が実施されるのは初めてとのことだが、報道によれば横須賀のみならず、沖縄県や長崎県佐世保市にある在日米海軍施設でもこれまで実施されたことはないという。すなわち、本市横須賀において我が国で初めて在日米海軍による空砲射撃訓練が行われるということである。これにより本市での実施で先鞭をつけ、今後全国へ広め、常態化させようとすることは明白である。

市長は防衛省に対して「訓練の様態が不明確」「なぜ、今の時期なのか」「空砲音が3日間も続くことへの周辺住民への影響」「民間船舶に誤って銃口が向けられる可能性」について懸念事項として確認を迫っている。防衛省は市長のこの質問事項に対して米側に確認して説明したいと述べている。

私たちは市長の懸念事項に対して、防衛省を通じて米側は無難な回答を寄せるであろうことを容易に想像する。提供水域内の訓練であることを強調し、日米安全保障条約及び、日米地位協定を根拠に推し進めてくるだろう。市長が懸念しておられるとおり、過去に米海軍は警備艇に設置された機銃を市民の船に向け威嚇したことがある。したがって、今回の空砲射撃訓練実施は「仮想侵略船」への対処を名目としつつ、市民へ空砲音を聴かせて「慣らしていく」という意味合いも含まれていると推察する。私たちはこのような日米の基地機能強化・一体化、戦争できる国づくりに市民と自治体を従わせる具体的策動を断じて許すわけにはいかない。以下を強く要望する。

記

米海軍横須賀基地における空砲射撃訓練の中止を求める

以上